



宇都宮市立錦小学校 学校だより

にしきの子

第7号 令和5年11月6日 発行者 校長 大森信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

遠足（3・4学年）

10月17日（火）、遠足で、3学年は壬生のわんぱく公園に、4学年は益子方面に行きました。3学年は、おもちゃ博物館・ふしぎの船・こどもの城を見学し、風の原っぱでお弁当を食べ、その後自由行動を楽しみました。4学年は、長谷川陶苑で窯を見学し、手びねり体験をしました。その後、ましこの森でお弁当を食べ、広い芝生の広場で思いっきり体を動かしました。快晴にも恵まれ、思い出に残る遠足となりました。



遠足（2学年）

10月18日（水）、2学年は、遠足で子ども総合科学館へ行きました。午前中は、プラネタリウムを体験し、その後、1階展示場では様々な実験ショーを、2階では身近な科学に関する展示物を見学しました。催し広場でお弁当を食べ、午後は、冒険広場のアスレチックで思いっきり体を動かしました。



交通安全教室（全校生）

10月19日（木）、2校時目に下学年、3校時目に上学年で交通安全教室を実施しました。市の生活安全課の職員の方による交通ルールやマナーについての講話や、代表児童が危険を予測する実験などを行いました。また、映画を視聴し、どうすれば交通事故に遭わないかを学び、自分の命は自分で守るということを再認識できました。生活安全課の皆様、大変お世話になりました。



2023錦まつり

11月3日（金）、穏やかな秋晴れの下、錦小PTA・錦地区子供会育成会連絡協議会の共催による「錦まつり」が盛大に開催されました。実に4年ぶりの開催です。体育館では、体育着販売やかたりいずの読み語り、校庭では、お囃子の体験会、模擬店、抽選会、スタンプラリーなど、ワクワクするイベントが盛りだくさんで、楽しいひと時を過ごすことができました。関係者の皆様、大変お世話になりました。



オープンスクールのお知らせ

【日時】12月2日（土）9：15～10：55

学校を公開いたします。保護者・地域の皆様、どうぞお気軽に授業をご覧ください。駐車場はありませんので、徒歩か自転車でお越しください。

◇最新の情報は、本校のホームページでご確認ください◇



就学時健康診断

10月25日（水）、令和6年度入学予定の児童と保護者を対象に就学時健康診断を実施しました。児童が各検診を受けている間、体育館では保護者説明会を開き、学校からは、入学までの準備について説明をしました。他に、PTA役員からPTAの具体的な活動について、子どもの家の関係者や子ども会育成会長からそれぞれ詳しい説明がありました。保護者や関係の皆様、大変お世話になりました。



子ども自転車免許事業（4学年）

10月23日（月）の3・4校時、4学年を対象に子ども自転車免許事業を実施しました。児童は、校庭に設置した模擬交差点を実際に自転車で横断し、様々な注意点を学びました。講習後、児童一人一人に自転車免許証が交付され、免許証を手にした児童は、自転車に乗る際の心構えを再確認することができました。市の担当職員の皆様、大変お世話になりました。



校内人権旬間

11月22日（水）～12月8日（金）を校内人権旬間とし、児童の人権意識の高揚を図ります。具体的には、全児童が人権に関する標語を作り、教室の廊下に掲示します。優秀作品を各クラス1点選出し、昇降口に掲示します。また、各学年・学級では人権に関する話題を取り上げたり、道徳の授業では人権教育に関連した内容を扱ったりします。学校全体では、生活目標を人権に関する内容にします。具体的な取組については、12月の学校だより・学年だより等で紹介し、保護者や地域の皆様にも啓発を図ってまいります。

豊かな感性・あふれる情緒（すみれの花）

「すみれ」の花は、日当たりのよい草地や田畑のわき、堤防、道端などにひっそりと咲き、むらさき色をしてとてもかわいく、花言葉は「謙虚」「誠実」のようです。多年草で葉は細長く、翼があるのも特徴です。「すみれ」の名前は、横から見た「すみれ」の花の形が、大工さんが木材に線を引くときに使う、「墨入れ」という道具に似ていることに由来します。初めは、「すみれ」と呼ばれていたのですが、やがて「い」が省略されて「すみれ」になったと言われています。また、日常的に使う、「冷たい」という言葉の由来についてはどうでしょう。寒さから指先が痛く感じられることから、「爪いたい」が省略されて「つめたい」になったそうです。



日本は、国土の大半において四季（春夏秋冬）が明確にわかれている国で、人々は、四季の移ろいに敏感で、自然に対する感受性が鋭いと言われています。また、満月や満開の花だけでなく、つぼみや雨の中の月など不完全なものの中にも自然の美しさを感じとり、様々な姿を愛でていたことがうかがえます。何気なく目にした「すみれ」の花の形から「墨入れ」を想像し、爪の先が痛くなるような寒さから「つめたい」という言葉を創造したことに、改めて感心させられます。日本人は昔から、自然や季節に対する感性がとても繊細で豊かでした。また、季節を感じることは情緒を育み、情緒が豊かな人は心が豊かで、人生も豊かになっていくと言われています。またそれらは、人々を魅了する美しい日本の自然があったからとも言えます。

地球温暖化、気候変動、SDGsなど、将来に不安を抱える言葉が氾濫している昨今、みんなが自分にできることを一つ一つ実践し、豊かな自然環境を守っていかなければなりません。そして、身近に咲いている花をみて「綺麗だな」と感じ、目の前に広がる景色をみて「美しい」と感じ、澄み渡る青空をみて「気持ちいい」と感じる心や感性をこれからも大切にしていきたいものです。